

東京農業大学 経堂防災チーム
地域創成科学科 3年 大竹悠斗
生産環境工学科 3年 本田雅崇
食品安全健康学科 3年 千田彩乃
分子微生物学科 2年 田茂山翼
分子微生物学科 1年 曾根玲里
分子微生物学科 1年 星野光香

経堂地区における 地域防災力の検討 ～実践編～

目次

- 昨年度の成果と課題
- 今年度のテーマと動機
- 今年度の活動実績
 - 能登震災復興支援チャリティーイベントとのコラボ展示
 - ヒアリング調査 一宮坂1・2丁目町会 鈴木様一
 - ヒアリング調査 一世田谷区ボランティア協会 柳様一
 - 令和6年度経堂地区防災塾
- 在宅避難、東京都防災アプリ啓発チラシ
- 世田谷小学校での配布、交流
- 成果報告 謝辞

昨年度の成果と課題

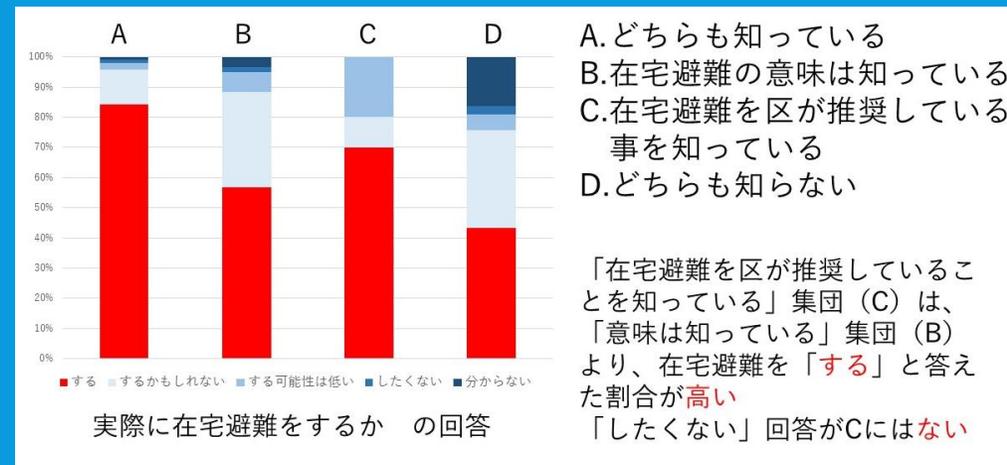
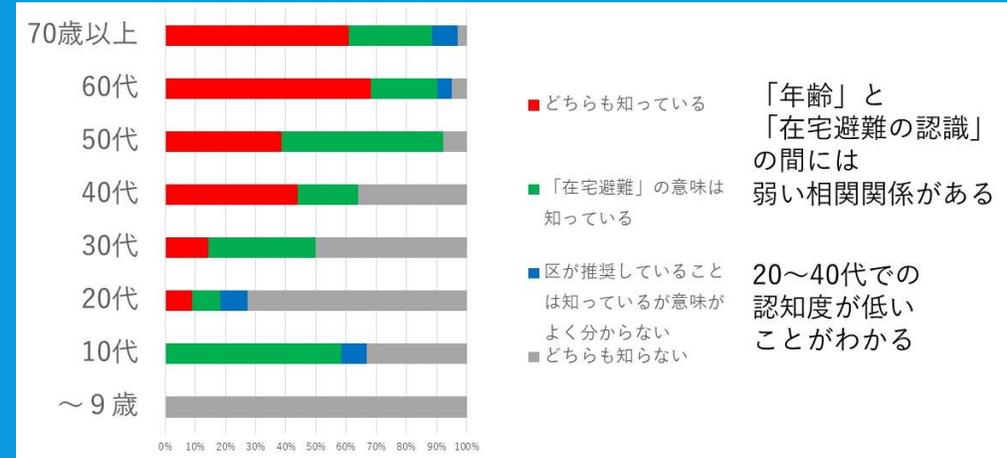
昨年度はアンケート調査を実施、町内会のイベントや防災訓練で配布アンケートでは、主に、地域の災害への認知度を調査。

成果

- 在宅避難の行動を決定するのは、「区が推奨している」事実である可能性が高い。
- 在宅避難に必要な物として、世田谷区は「一人最低3日分以上」の備蓄を推奨している。
- 「在宅避難の認識」と「自宅の備品」の間には相関関係が見られなかった。

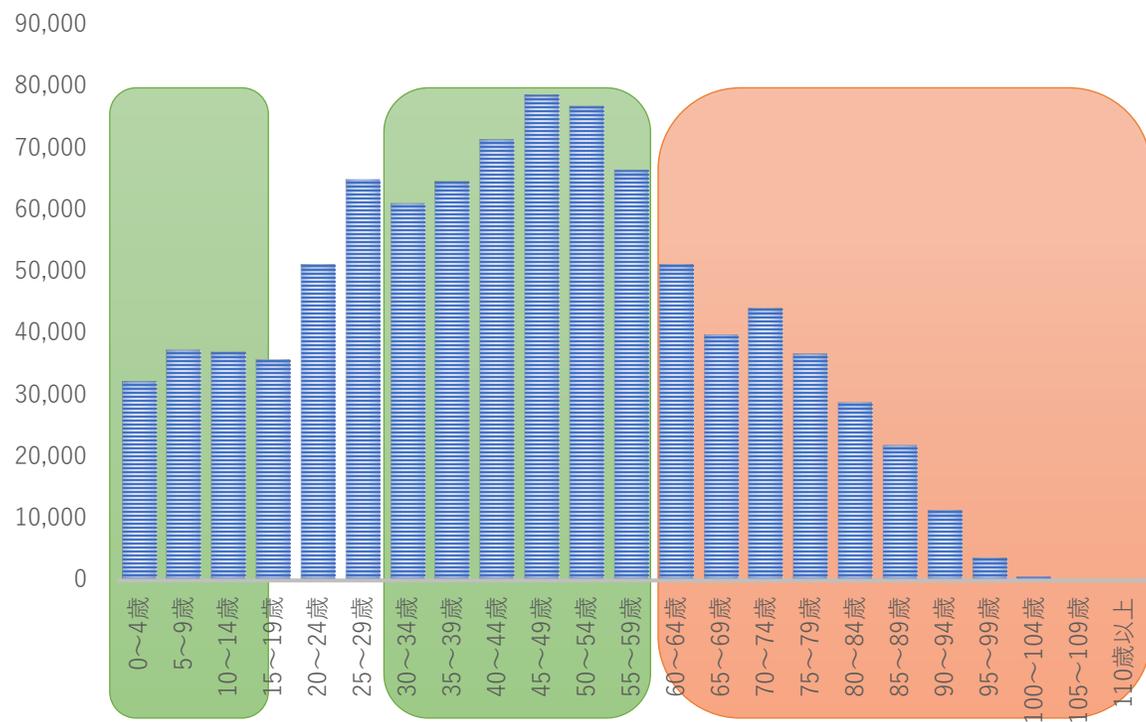
課題

- 年齢層により、在宅避難の認知度がバラバラ
- **20代から40代に向けて呼びかけ**
- **世代に応じた啓発の工夫を**

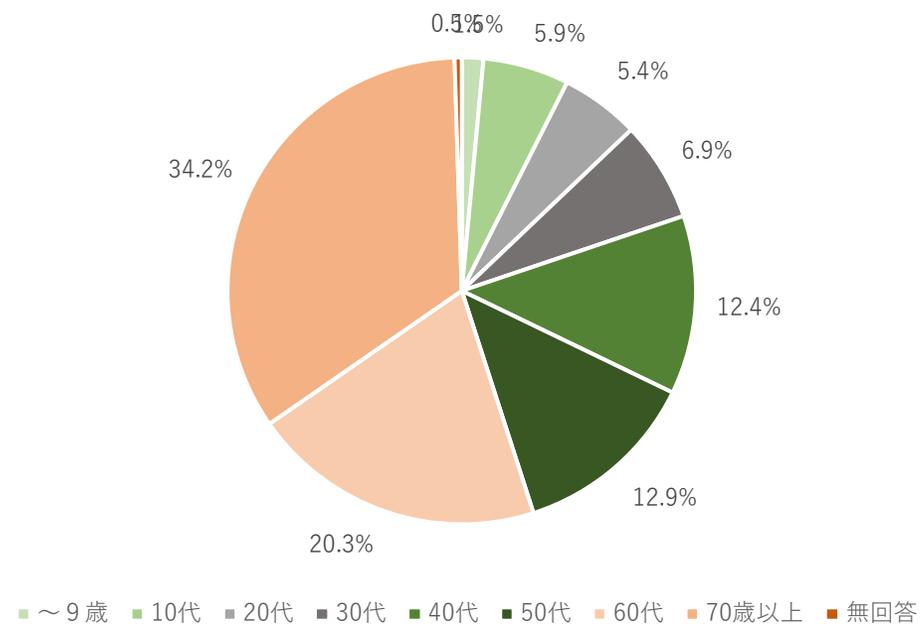


世田谷区人口構成 (R5)

世田谷区人口構成 (R5)



R4アンケート年齢割合

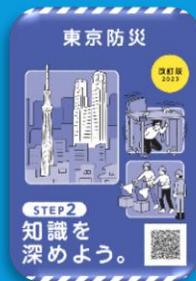


今年度のテーマと動機

親子を対象とした東京防災、在宅避難の啓発チラシ作成

ボードゲーム

- 人口構成
- 認知度向上
- 担い手育成
- 地域の防災教育



- アプリ啓発
- 在宅避難を伝える
- ヒアリング調査

今年度の活動実績

7/24 経堂地区 町会長会議

8/6 地域交流ラボ学生交流 せたがやmeet up!

9/15 東京農業大学主催 能登復興支援チャリティーイベント コラボ展示

9/17 ヒアリング調査 一宮坂1・2丁目町会 鈴木様—

9/19 ヒアリング調査 一世田谷ボランティア協会 柳様—

9/28 経堂地区 防災塾

10/6 経堂小学校避難所運営訓練

(11/11～12/9 チラシ作成)

1/18 世田谷小学校避難所運営訓練 チラシの解説

1/30 世田谷小学校での交流



能登震災復興支援チャリティーイベント

ヒアリング報告

経堂地区町会長：鈴木様

- 町会としての災害時要配慮者の対応
基本的に避難所運営マニュアルに則り行動
＋現場対応、配慮によって向上する
しかし各配慮者特性に応じて個別で対応すべき
かつ避難所自体の性質でも対応は変化
- 町会加入のメリット、町会の変遷
安心安全な住環境づくり（ソフト）
元々は「行政補助団体」地域密着型
個々の生活水準の上昇、行政の拡充
- 今後の町会イベントの展望
住民が発案できる企画
防災訓練も敷居が高く思われる
もっとライトに防災を考える会などを検討



ヒアリング報告

せたがや災害ボランティアセンター：柳様

- ボランティアセンターの取組：サテライト
指定避難所内にボランティアの窓口サテライト
を開設し町会や社協が担ってたボランティア活
動をコーディネーターが司令管轄
- 在宅避難実現の条件
 - 1 備える 耐震、転倒、備蓄
 - 2 空間整備 冬なら毛布→食欲、排泄面へ
 - 3 トイレ どこでもトイレ対策だけは！
 - 4 地域への共助
避難者はお客様ではなく、避難所はその人
らで運営する事が理想 在宅は安否確認や物資
の個人宅への分配が課題
- ボランティアに求められる活動、態度
特別なスキル資格はいらない。お話を聞く、買
い物に行くだけでも支援
気持ちに寄り添って支援できるかが最も大切



ヒアリング報告

せたがや防災NPOアクション: 宮崎様

- 能登から学ぶ在宅避難実現の為に
帰ったら家具が倒れていた
倒れていたら片付けた。何のために？→
今日からそこで生活するため
しかし“する”と“できる”は違う
- 首都直下に必要な備え
最優先は耐震化 揺れ数秒後の命を守る
対策を
対して備蓄は避難生活の質の対策
- 在宅避難のデメリット
 - ・情報
 - ・物資
 - ・相談相手自分から取りに行く必要
かえって3つをクリアできれば可能
その達成手段として“共助”



避難行動←



発災→命を守る行動後←

- ・一時集合場所（周囲の状況確認）←
- ・広域避難場所（火事延焼で）←
- ・公設避難所（全半壊で生活×）←

避難生活←



避難所 or 自宅 で生活←

防災啓発チラシの制作過程

大人向け＝在宅避難の認知度向上

当初、インタビュー項目が強調されすぎたレイアウトになっており、インタビュー記事なのか在宅避難の啓発記事なのか分からなかった。また、大人向けに文字を多く取り入れたが、かえって見にくくなった。

→「防災レベルアップ」という段階的な説明を用い、見やすいレイアウトに修正
都が制作している「東京防災」「東京くらし防災」のイラストで簡素に修正



子ども向け＝アプリ啓発 紹介

防災教育、担い手育成
子どもにも楽しみながら防災を学んでほしい。
＝ボードゲームの作成
しかし...ボードゲームを作成するのは、難易度が高い。

→東京都の「東京都防災アプリ」の啓発
ボードゲーム、すごろくのようなデザインを残し、簡潔かつ楽しく工夫



防災 レベルアップ

表 親子で楽しく防災を学ぼう
裏 家族で在宅避難を学ぼう

~東京都防災アプリとは~
いつも・いざというときにも役に立つ、東京都公式の防災アプリです。
「あそぶ」「まなぶ」「つかう」をコンセプトに、
防災ブック「東京くらし防災」「東京防災」をはじめ、
災害への備えや災害時に役立つ多くのコンテンツを利用できます。

インストールはこちら



ゲームで楽しく
ぼうさいを学ぼう！



Q もんだい
じしんのときまどがあげられないことがあります。
カーテンをあけて、ねたほうがいいです。

○ か ×

A せいかいは×
じしんのとき、まどがこわれるかもしれません。
カーテンはしめてねます。

クイズに答えて
ポイントゲット!



地震への備え 足りてますか？

能登半島地震やこれから起きるであろう首都直下地震への注目など防災は地域や世代を問わず考えなければならぬ関心事となっています。
身近な命を守るため、ぜひ子どもと一緒にご家庭で「防災レベルアップ」しましょう！

LEVEL1 避難生活を想像しよう

防災レベルアップの第一歩は「被害を想像すること」
災害発生時、避難生活で一体どんな事が起きるか想像してみましょう。



避難所での 共同生活

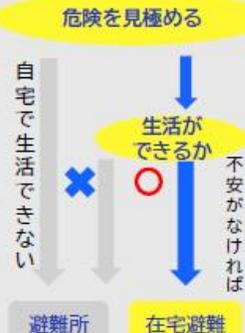
自宅に居住できなくなった際に、学校の体育館などで避難生活を送ります。
厳しい環境下ですがプライバシーやマナーを守り協力して生活しましょう。

在宅避難

地震が起きたら避難所での生活が始まると思っていませんか？

実は備えさえあれば自宅ですぐ安心して過ごす事ができるのです。

自宅ではプライバシーが守られ、感染リスクも低く、ベッド環境が避難所に比べ良好なため災害関連死リスクも低くなります。また食糧品をストックすれば避難生活中も好きな物を食べられます。



防災レベルアップ

家族で在宅避難を学ぼう

LEVEL2 在宅避難を知ろう

災害時、安全が確保されている場合に自宅にとどまって避難生活を送る方法です。
首都直下地震と似た阪神淡路大震災では実に80%が在宅避難であり、**世田谷区は在宅避難を推奨しています。**
在宅避難が難しい場合は親せきや知人宅へ避難する「縁故避難」などの分散避難も検討しておきましょう。



地震



一度お部屋を見渡してみましょう
落ちてくる物はありませんか？
在宅避難では事前の準備が重要

【在宅避難と町の取組】

宮坂1・2丁目町会長
鈴木 賢治さん



町会は祭りや普段の私たちの生活を安心安全にする取組を行い、災害時には行政指導のもと避難所開設を地域住民と協力して行います。

Q、町会長ご自身は在宅避難なさいますか？

A、します。自宅は耐震補強をし、家具固定、備蓄もしています。
もっとも、災害時には避難所開設は町会指導の下行うので、避難所開設の為に出勤します。

詳しい防災知識は「東京くらし防災」「東京防災」をCHECK！



東京くらし防災



東京防災

LEVEL3 命を守る地震対策

在宅避難の最も重要な対策は「命を守る空間づくり」
建物や家具に押しつぶされないことが直接死から命を守ります。

家具転倒防止 耐震化 出火防止



在宅避難時の生活スペースや避難通路の確保などにも効果的です



地震に備えて建物を強化し、被害を最小限にしましょう



出火を防止し、延焼の食い止めに重要！
消火器や火災警報器の設置が効果的です

【在宅避難に必要なものとは】

せたがや災害ボランティアセンター
柳 由美さん



せたがや災害ボランティアセンターは、災害時に被災者から困りごとを受け、ボランティアにつなげます。

- 1、備蓄
 - 2、暮らす空間づくり
 - 3、災害用トイレ対策
 - 4、地域への“共助”
- ...在宅避難の難しい点は、支援物資を個人宅までどう届けるか。地域は共助で支えあうことが大切です。

作成者の想いやこだわり

新鮮さ

在宅避難の啓発チラシは、世にたくさんあると思いますが、情報量が多く、読むのをためられてしまう方もいらっしゃる。このチラシは、出来るだけイラストを多く、文字数を減らし、在宅避難を知る導入材料になれば嬉しい。
(本田)

全世代

東京都防災アプリは、子どものみでは操作が難しいので大人に向けた説明も添付し、子どもが少しでも使いやすいようにした。また、添付している画像は実際に言語設定やモードを切り替えたものでもあるため、より実際の画面のイメージ通りのものにした。(曾根)

見ため

子どもたちにどうすれば興味を持ってもらえるのか、かつ大人にも読んでもらえるように、デザインや色づかい・興味を引くような内容にするなど、細部までこだわって作成した。(星野)

世田谷区立世田谷小学校での配布、交流



- アプリで実際に遊べる”防災クイズ”を子どもたちに体験してもらい、楽しみながら防災の啓発を行った。
- 総合学習で防災について勉強した成果を3年生の子どもたちに発表してもらい、地域の防災について交流した。

成果報告、まとめ

・年間目標、テーマ

「世代に応じた在宅避難の啓発→効果的な防災情報の普及啓発」

課題：在宅避難の認知度がバラバラであった。

取組：20代から40代と子どもに向けて呼びかけるパンフレットを学生の創意工夫により作成することが出来た。

成果：パンフレット作成やヒアリングを通して、様々な世代に伝えるだけでなく私たちの防災意識を向上させてくれた。



・2年間での目標

「地域防災力を高める」

データ分析：地域の防災について改めて定量的に数字で明らかにした。

地域との交流：データでは不足していた定性的な実情を知り、地域の防災活動や在宅避難の意義を学生が考え、他の学生や地域の皆様に伝えることができた。

・活動を通して正確に情報を伝える難しさや伝えることの大切さ、人との関わりの重要性を学んだ。



謝辞

本研究にあたり、多くの方々にご協力頂きました。

- ・ 能登復興支援チャリティーイベント主催の東京農業大学
- ・ 東京農業大学 能登復興有志の会のみなさま
- ・ ヒアリング調査にご協力頂いた経堂地区町会員のみなさま
- ・ 世田谷ボランティア協会のみなさま
- ・ 防災訓練でご協力頂いた参加者のみなさま
- ・ 私たちの活動にてご支援を頂いた経堂まちづくりセンター
- ・ NPO法人まちこらぼのみなさま

感謝申し上げます。
ありがとうございました。

ご清聴ありがとうございました